

議会トピックス

- ・市長に政策提言を行いました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
市長に常任委員会の調査結果を元に「除雪に関する提言書」を提出しました
- ・11月9日緊急会議を開催しました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
令和4年11月9日、緊急会議を開催し、一般会計補正予算等を審議しました
- ・議会報告会・意見交換会を開催しました・・・・・・・・・・・・・・ P10
令和4年11月に市内4会場で議会報告会・意見交換会を実施しました。
- ・多様な市民の参加促進のための取り組み案を取りまとめました・・・・・・・・ P10

市政を問う！

一般質問Q&A

くらし・安全



豊橋市との

友好都市の締結

小野京子



Q 友好都市として都市間連携協定を締結すべきでは。

A 本市と豊橋市は、官民一体となった交流や事業連携を継続し、深化させてきた。

こうしたことから、相互の友好・信頼関係が築かれてきており、両市の関係を次のステップに進める機運が醸成されているものと捉えている。現在、本市と豊橋市の間で、それぞれの強みや特徴をいかしつつ相互にメリットを享受できる交流の発展に向けて、具体的な連携分野や内容に仕組みづくりなどの協議を進めている。

令和5年早々にも協定締結に向けた見直しについて、良いお知らせができるものと考えている。※

その他の主な質問

- 出産・子育て応援交付金
- 放課後児童クラブの質の確保
- 9価HPVワクチンの定期接種化の対応

一般質問とは？
議員が、市民の皆さんの生活にかかわる身近な市政の課題に対して質問を行います。その中から質問および答弁の要旨を1件、その他の主な質問項目を3件掲載しています。

産業・経済



市場再整備

基本計画

阿部亨



Q 今年度中に策定される基本計画における施設整備の方向性は。

A 市場再整備基本計画は、学識経験者、関係団体、市場事業者で構成される策定委員会で検討を進めており、整備方針、施設規模や配置、導入機能、余剰地活用、想定使用料などを検討項目としている。

現地建替えによる施設規模の適正化、品質管理の高度化、衛生管理機能の強化、余剰地の効果的な活用、ゼロカーボン化などを重点事項として、整備方針をまとめていきたい。

その他の主な質問

- 道の駅ふくしまの周辺果樹園等との連携
- 中小企業振興会議における振興策の議論と取り組み
- 市場再整備におけるPFI導入の可能性

※その後、2月9日に豊橋市と都市間連携協定を締結することが発表されました。

農作物の

ブランド化

白川敏明



Q 本市の農産物をブランド化することが、東日本大震災からの真の復興に繋がるのでは。

A 高品質で安全なおいしい農産物を安定的かつ継続して供給するとともに、その価値が他の産地と差別化され、認知されることでブランド力が向上するものと考えている。

本市のくだものは、初夏のサクランボから夏のモモ、秋のナシ、ブドウ、初冬のリンゴ、冬から春のイチゴと1年を通して収穫されることから、くだものの宝宝箱としてのブランド化の推進に努めている。

さらには、スイーツプレミアム事業による農産物の付加価値向上や多様なくだものなどを詰め合わせたふるさとアグリボックスによる販売促進など、農作物の魅力創出とブランド化を推進することが、真の復興につながるものと考えている。

その他の主な質問

- 他のブランドと比べて優れている本市の農産物
- 外国人の滞在環境の充実
- 福島市相撲場の改修

街なか再生

リノベーション事業

齋藤 正臣



Q クリエイティブ産業のほかにデパート・総合大型店や衣料品店、カフェ・喫茶店あるいは新たな特定産業を優遇して誘致すべきでは。

A クリエイティブ産業を街なかに誘導し、新たな価値の創造と賑わいの創出を目指す創業ゾーンの形成を図りたいと考えているが市民ニーズや街なかの必要性の点では、ファッションなどを取り扱うお店・ショップが必要であると考えている。

しかし、市内のビルが老朽化している、ファッションに適した物件が少ないという問題があるため、不動産業界と意見交換会を行い、今回の地震に伴う半壊以上の被災の場合には市が公費解体できるようにし、その上でのリニューアルを促した。ファッションにも様々な分野があるので総合的に勘案し、街なかにおける産業誘致の政策の在り方を引き続き検討していく。

その他の主な質問

- 福島駅東口再開発区画を隔てた南北の交通
- 建設作業員などによる街なかの商店街利用
- 街なか再生リノベーション事業の補助率の経緯

環境・ごみ

脱炭素社会

丹治 誠



Q ゼロカーボンシティ宣言後の主な取り組みは。

A 福島市脱炭素社会実現実行計画に掲げた4つの基本方針に基づいた施策を行っている。

再生可能エネルギーの導入拡大と効果的な活用では、住宅用太陽光発電システム設置のほか、蓄電池やホームエネルギーマネジメントシステムなどを助成対象に含め、脱炭素住宅の一層の整備などを推進した。

省エネルギー・省資源に向けたライフ・ワークスタイルシフトでは、街路灯LED化の2年前倒し、パークアンドライドやもりりんシェアサイクルの利用促進、EV・FCVなどクリーンエネルギー自動車の普及推進、雑紙の分別回収や食品ロス削減アドバイザーの設置などに取り組んでいる。

温室効果ガス吸収源の確保に向けた取り組みの推進では、荒川区と協定を締結し、市有林の一部をあらわの森と名付け、森林の共同整備をスタートしたほか、道の駅ふくしま屋内こども遊場の遊具への県産木材の活用などを行った。

気候変動を見据えた対策の推進では、ふくしま環境フェスタやふくしまエコ探検隊において、啓発事業に取り組んだ。

今後は、実行計画の温室効果ガス削減目標値を見直し、市・市民・事業者が一体となって取り組みを前倒しする。

その他の主な質問

- 市立図書館本館の再整備
- 医療的ケア児支援
- 受動喫煙防止

ごみの排出量

村山 国子



Q ごみ排出量・焼却量・埋立量の減少率から見たごみ減量大作戦の成果は。

A ごみ減量大作戦による様々な取り組みによりごみ排出量が減少し、さらには焼却量や埋立量の減少にも一定程度の効果があったものと捉えている。

その結果、温室効果ガス排出量の削減や埋立処分場の延命化にも貢献できたと考えている。

その他の主な質問

- 市営住宅の家賃減免
- インボイス制度の中止
- 投票率向上の方策

包括連携協定の枠組み

などを活用した民間企業のごみ減量への貢献

川又 康彦



Q 市民へのさらなる周知やリサイクル品の収集に関する協定を個別に結ぶなど、取り組みを拡大することでごみ排出量の減少にも寄与するのでは。

A 民間企業での店頭回収は店舗での回収対応時間が幅広く、市民の利便性が高いため、資源物の店頭回収を実施している店舗を市ホームページ上で紹介するなど、利用促進を図っている。

このような取り組みが拡大することとは、企業にとってもSDGsに貢献するものと考えており、市のごみ排出量低減にもつながるため、今後民間企業と連携しながら、ごみの減量と資源化促進を図っていく。

その他の主な質問

- 河川や公園の愛護活動
- 飼い猫の不妊去勢手術費一部助成
- 鳥インフルエンザ蔓延防止

福島市のホームページでは一人ひとりができるごみ減量・リサイクルの取り組みをご紹介します。

こちらからご覧ください→



福祉・健康

福島駅東口指定



喫煙所
山田 裕



Q 三次喫煙や副流煙被害など、健康に影響を及ぼしかねない福島駅東口指定喫煙所の場所はふさわしくないのでは。

A 東口指定喫煙所利用再開後は、駅前広場内の吸い殻や指導件数は減少してきているので、現在の場所でも効果がでてきていると捉えている。

今後は、引き続き環境調査を行うとともに、利用動向を注視していく。

その他の主な質問

- 高齢者の移動手段としての乗合タクシー
- 学校給食費無料化
- 世界平和統一家庭連合（旧統一協会）からの被害者救済



医療・介護人材の確保
梅津 一匡



Q 東北圏域の自治体と連携し、圏域独自の保健師、助産師、看護師および准看護師や介護福祉士の育成・確保を図るための制度を設けるべきでは。

A ふくしま田園中枢都市圏ビジョンにおける地域医療の充実に向けた取り組みを進めるため、連携市町村で組織するワーキンググループを設置し、意見交換をスタートした。

医療従事者、介護人材の確保、育成は重要な取り組みの一つであると認識しており、今後、ワーキンググループで協議、検討していく。

その他の主な質問

- 福島駅東口自転車駐車場整備
- 福島駅東口周辺のカラス被害防止対策
- カジュワーク職員制度

まちづくり



高齢者を対象とした交通弱者対策
山岸 清



Q ももりんシルバーパスポートの交付時に運転免許証の自主返納を呼びかけては。

A ももりんシルバーパスポートは、75歳到達月の前月に対象者宛て郵送しており、これまで、運転免許自主返納を促す取り組みは実施していませんでしたが、今後は、高齢者の事故防止の観点からも、警察など関係機関と連携し、交付時に自主返納を促すチラシを同封するなど周知啓発に努めていく。

その他の主な質問

- 交通便利性の高い区域への居住誘導
- ごみ減量のアイデア募集
- 世界平和統一家庭連合（旧統一協会）被害にあった市民への相談、支援体制



子育て定住支援賃貸住宅
二階堂 武文



Q 多くの空き部屋に対して、子育て中の周辺住民の方からの入居の希望がある。今後、県や国とも入居資格の見直しについて相談すべきでは。

A 福島市子育て定住支援賃貸住宅は、国の福島再生加速化交付金を活用して整備した住宅で、当該交付金要綱などにより、東日本大震災で福島市外に避難された子育て世帯の方が帰還する場合の入居に限られているが、空き住戸対策は課題であるため、今後、子育て世帯や移住・定住などの支援策として活用できるように入居資格の見直しについて国や県に働きかけていく。

その他の主な質問

- 磐梯吾妻スカイライン・ヒルクライム大会の継続開催
- 吾妻五葉松の自生地・福島で育まれてきた盆栽文化
- 吾妻高原風力発電所



高齢者の移動手段
石山 波恵



Q 2025年問題などを見据えた持続可能なももりんシルバーパスポートの見直しが必要では。

A 高齢化の進行とともに、平成22年度の事業開始当時3万6千人であった対象者が令和3年度は4万3千人まで増え、さらに令和12年度には、推計で5万6千人になると試算しており、費用負担も増えていくことが想定される。

一方で、増加する高齢者の生活の足の確保や免許返納への対応などが重要性を増しており、事業の持続可能性と変化する社会情勢への対応のバランスを考慮しながら、将来を見据えた制度見直しを検討する必要があると考えている。

利用地域や利用頻度などが偏在しているという課題の解消を図るため、タクシー利用も検討に加えながら、より利用しやすく持続可能な制度を検討していく。

その他の主な質問

- 市立図書館の再整備検討状況
- ふくしまシティーハーフマラソンでのおもてなし
- 福島駅東口改札前観光案内所

■教育・文化



森林環境税による

古館の大ケヤキ

の保存

鈴木 正実



Q 森林環境交付金の申請について現在の状況、今後の作業の見通しは。

A 令和4年8月に地元町内会から保存に関する事業への支援要望を受け、森林環境交付金の重点枠活用に向け県と協議を進めた結果、今後の作業量と着手時期を勘案して、令和4年度、5年度の2か年に分けて実施することとし、11月に県に対し令和4年度分の当該交付金にかかる追加要望を提出した。併せて、地元町内会への補助金について補正予算を計上した。

今後、地元町内会において、令和4年度は、大ケヤキの枯れ枝の除去を行い、除去した枝を活用したコースターを制作・配布し、地元住民の森林を守り育てる意識の醸成を図る。また、令和5年度は、大ケヤキ本体保存のため支柱や釣りワイヤーを設置する保全対策を行い、地元住民への森林環境学習会などを実施する。

その他の主な質問

- 景観や自然環境と再生可能エネルギーの推進
- 古館の大ケヤキの文化財（天然記念物）としての保存
- 剪定枝の焼却処分



生理用品の

小中学校トイレ

への設置

佐々木 優



Q 生理用品は、困窮しているから支給するのではなく、ジェンダー平等の観点から設置する認識が必要では。

A 小中学校では、衛生的に管理できる保健室に生理用品を常備し、養護教諭などが会話を通して児童生徒の心や体の変化だけではなく家庭の状況にも配慮しながら、直接手渡すことができる環境を整えている。養護教諭などが直接向き合うことで、発育発達が著しい児童生徒が感じる生理による不安や困難を軽減できるとともに、家庭で使用する分についても必要な量を手渡すことができるようにしている。

現時点では、学校からトイレへの設置要望は届いていないが、現在小中学校で実施している保健室での生理用品の配布実績が少ないことからモデル校を設置するなど、その必要性について検証していく。

その他の主な質問

- 学校給食センターの大規模化
- 農業者へ直接給付で支える新たな施策
- マイナンバーカードと健康保険証



スポーツの

まちづくり

大平 洋人



Q 全国大会レベルの大会を誘致するために市宮庭球場の早期改修が必要では。

A 福島市庭球場は、昭和46年の供用開始以降、日本スポーツマスターズ2004福島大会や県総合体育大会、市民体育祭など、多くの大会が開催されてきたとともに、日常的にテニス愛好者の方々に利用いただいている。平成22年度から23年度にかけて、人工芝の全面張替を実施したが、張替から10年以上が経過し、一部に摩耗などが見られ、利用に支障をきたしている箇所もある。

また、夜間照明設備には水銀灯を使用しており、省エネの観点からも早期の改修が必要だと認識している。限られた財源の中で事業の優先順位もあり、今後、スポーツ施設全体のあり方や他の施設の改修時期などを総合的に勘案し改修を検討していく。

その他の主な質問

- 公立夜間中学校の設置
- あづまエリアアツリズム推進事業の成果
- 観光素材としてのUFOを活用した事業展開



給食時の黙食

佐原 真紀



Q 児童生徒の給食時にどのようなルールで声掛けを行っていくのか、今後の指導方針は。

A 国の基本的対処方針が変更されたことを踏まえ、給食時に適切な換気を確保するなどの感染防止策を講じたうえで、座席をハの字形にし、互いの顔が見えるように工夫したり、教師から食事の話を提供したりすることで、少しずつ児童生徒が会話を楽しみながら食事ができるよう各学校に指導していく。

その他の主な質問

- 総合的な自殺防止対策
- 女性、子ども、若者の自殺防止
- 児童生徒への運動時のマスクの指導

各議員の氏名の下にある二次元バーコードから市議会 HP の録画映像をご覧ください。（公開期間は2月末日まで）
3月以降は会議録をご覧ください。

会議録はこちらから→

